

# あいちオレンジタウン構想 「認知症に理解の深いまちづくり」 モデル事業を通じて気づいたこと

## 【主な事業】

- 認知症サポート医療関係者連絡会など、多職種の連携に関すること
- 若年性認知症支援に関すること
- 家族支援に関すること
- 企業との連携に関すること、など

# モデル事業の成果

- 医療関係者等の事例検討会において、個別ケースへのそれぞれの視点を共有
- 地域包括ケアシステムの有効性の確認
- 企業やNPO団体との連携のきっかけづくり
- 若年性認知症という、狭間の支援に関する啓発の必要性を確認
- 個人賠償責任保険の開始により介護負担を軽減し、検索ネットワークへの登録を推進

# 事業を通して見えてきたこと

- 専門職の支援体制の強化は、今後も顔の見える関係を丁寧につけていくことが望ましい
- 市民の認知症の理解は十分でなく、本人や家族から不安の声がある
- 地域資源の把握と周知不足により情報が伝わらない
- 認知症本人の思いを聞き発信する場、方法を作る
- 若年性認知症支援の継続の必要性和難しさ

# 今後の展望

- ・ 認知症支援に関する多職種連携

支援体制の整理、情報集約と後方支援、事例検討会の継続

- ・ 本人家族支援

オンラインによる情報提供、既存の認知症カフェ等の充実、当事者の利用につながる仕組みづくり、思いを聞き取る場

- ・ 市民の認知症についての理解

認知症サポーターを活用した担い手育成（チームオレンジ）

- ・ 企業との協働

# 「気持ちをわかってほしい」と思う人がいる

- ・ 若年性認知症の人や家族の声

「つどいに来られるまでに長い時間がかかった」

「安心して話せる場所がほしい」

- ・ 高齢者実態把握調査 (R2.3)

※介護経験のある市民を対象に複数回答

「施設入所の要因：認知症による問題行動 66.4%」

- ・ eモニター (R3.2)

「認知症の人は偏見を持たれている傾向があるか」

『そう思う』 21.4%

『どちらかと言えばそう思う』 48.6%

# 「認知症の人に何かできたら」と 思っている人がいる①

- 地域住民、町内会、民生委員、など
- 認知症サポーター
- 認知症初期集中支援チーム
- 各部会の専門職
- 医療機関、介護支援事業所等
- 企業や店舗、NPO法人
- 各相談窓口

# 「認知症の人に何かできたら」と 思っている人がいる②

「認知症カフェを作って、本人や家族が集える場所  
を作りたいがどうしたらいいか」 (各専門職)

「認知症の人と地域で一緒に交流したい」 (GH)

「困っている家族の話を、ひたすら聞いてあげたい」  
(認知症サポーター)

「認知症の人が、自分の本当の気持ちで暮らしを  
決められるように手伝いたい」 (地域包括)

「認知症の方に丁寧に接するのは当然。市民の皆さん  
がもっと優しくなってほしい」 (スーパー)

# 認知症の人が暮らしやすいまちは 全ての人に暮らしやすいまち

～それぞれ、認知症についての思いが点在している現状～

どこに相談  
していいか  
わからない

認知症  
カフェを  
開きたい

認知症の人や  
家族を  
手伝いたい

一緒に  
楽しめる場所  
が欲しい

もっと認知症の  
事を知りたい

「思いが繋がっていくために  
何をしたらいいのでしょうか？」